

仁和寺顔料データベースの構築

Construction of the Ninnaji pigment database

角 美枝 Mie Kado / 技術員



研究目的

文化財の保護・保存を目的としたデジタルアーカイブは、公開・複製・修復など様々な形で、デジタル化された画像データが利用されています。本研究室においても、画像データの色情報から材料を分析する研究が進められてきました。顔料の情報は、明治以降の比較的あたらしい絵具の情報が多く、古典絵具に該当する江戸時代の情報については、画材推定を行う上では、更なるデータの構築が求められています。そこで、本年度に行った仁和寺観音堂のデジタル化に伴い、仁和寺顔料データベースの構築を目指します。

研究内容

仁和寺は、仁和4年（888年）に完成、応仁の乱（1467年）にて一山のほとんどを焼失する悲運に見舞われました。応仁の乱から約160年後に再興の機が訪れ、正保3年（1646年）に再建が完了、創建時の姿が再現されました。観音堂は、通常非公開にて文化財が保護されており、建造された約400年前（江戸時代）の顔料を分析するには、非常に価値があるものと思われます。

本研究室にて開発された画像材料推定総合システム（Pigmalion）は、文化財を傷つけることなくデジタル化された画像データより材料分析を行うことができ、このシステムを活用することで、江戸時代の顔料を推定することができます。

本研究では、仁和寺観音堂の画像データより推定された顔料情報をもとに、新たな顔料情報を追加し、江戸時代に使用されていた古典顔料情報の向上を行います。また、仁和寺にて使用されていたと推定される顔料のみにて、仁和寺顔料データベースを構築することで、仁和寺文化財の分析・デジタル修復に役立てます。本研究を行うにあたり、まずは、Pigmalion構築後に追加分析された顔料情報の追加・更新を行い、データベースの精度向上を図ります。

今後期待される研究成果

仁和寺顔料データベースを構築することにより、仁和寺のみならず江戸時代以降に建造された多くの文化財の顔料推定に、貢献することが期待されます。